



信愛館だより

Vol.139
2022年5月号

発行/ケアハウス信愛館
近江八幡市北之庄町492-2
TEL/0748-32-2220
FAX/0748-33-7555
http://www.shinaikan.com
Mail/vories@zb.ztv.ne.jp

みよ、兄弟達が一つになって共に住むことは、(詩篇133の1)
なんというしあわせ、なんという楽しさであろう

「ヴォーリズと同志社」

永 芳 稔

先日、ヴォーリズの書いた伝記「失敗者の自叙伝」を読んでいたら、面白い記事を見つけました。同志社について書いているのです。

ヴォーリズが近江八幡についたのは、1905年2月5日です。そして、2月10日には、京都YMCAのG. Phelpsの招きで京都を訪れます。その時の記事に「私が故国を出る前に持っていた、日本に関するわずかな知識の中の、主なものといえば、同志社という学校のことであった。」という一節があります。新島襄が同志社英学校を作ったのは、1875年。そして、新島は1890年には亡くなっています。ヴォーリズとは年代の離れた同志社のことをヴォーリズが知っていたのは驚きでした。

そして、2月12日には同志社神学校のチャペルで行われた礼拝に出席。さらにその後、学生の祈祷会、親睦会に出席、学生達の英語力の高さに驚いています。

その後、同志社との関係はさらに深まり、特筆すべきことは、1908年には同志社の宣教師、ギューリックの依頼により、カレッジソングの作詞をしています。ワンパーパストウシヤという、あれです。

さらに、近江兄弟社の発展に伴い、ヴォーリズは同志社の理事を長く務めることとなります。また、第二次大戦末期には、同志社、京大、東大等で、「英米文学」の講義を行うまでになっています。

彼の蔵書を見ると、シェークスピアはじめ、多くの文学書があります。ヴォーリズの教養の深さが感じられます。

今後、この分野での研究が進む事を期待したいと思っています。



キリスト教 あいうえお (2巡目) 「コヘレトの言葉」

近江金田教会牧師 横田 明典

旧約聖書の中に「コヘレトの言葉」という文書があります。以前の口語訳聖書では「伝道の書」でした。12章までの比較的短いものですが、名言の宝庫とも言われており、宗教を問わず引用されることも多くあります。例えばヘミングウェイの小説「日はまた昇る」も「日は昇り、日は沈み、あえぎ戻り、また昇る」という箇所からの引用です。また「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある。」という言葉が好きな人も多いです。コヘレトの言葉は、当時のユダヤ教の教えが強調されるのではなく、人間の普遍的な疑問についての哲学的な考察がなされているため、宗教者でなくとも興味をひかれる人が多いのだと思います。冒頭に「なんという空しさ、なんという空しさ、すべては空しい」という言葉があり、少し厭世主義・悲観主義的ではありますが、世の現実の中で、その答えを捜そうとする営みは、共感する人が多いのも頷けます。

これを機会に、是非一読してみるのも良いかと思えます。

◆ ひなまつり ◆



今年も玄関ロビーに
ひな人形が
飾られました。

◆ 避難訓練 ◆



3月1日避難訓練を行いました。
皆様、声をかけあい、落ち
着いて避難されました。
いざという時の備えは
大切ですね

◆ 花見ツアー 近江花緑公園 (3月30日・31日)

今年は寒波のためソメイヨシノはまだ濃いピンクの蕾でしたが、早咲きのカワヅザクラやサンシュユ、ゲンカイツツジなど様々な花樹に出会うことができました。三上山からの風も爽やかでした。





◆ 春のケアハウス信愛館

信愛館の中からでも、たくさんのお花に出会うことができます。庭園は入居されている方々が大切にお世話をされています。



2階廊下より見る桜とツッカーハウス。
3階へ行くと西の湖がよく見えます。



3階には庭園があり、色とりどりの花であふれます。



大輪のパンジーが寒い冬を越してくれました。



2階ラウンジから見る真っ白なコブシと山桜。
小鳥たちのさえずりも季節を感じさせます。

◆ 季節の生け花



四季折々の生け花より句も添えています。



1月21日 誕生日会

誕生日をともに祝うことが出来ることに感謝しています。



2月3日 節分 巻き寿司にイワシ。皆様の幸せを願いながら。



2月14日 バレンタインデー 手作りチョコムースを添えて。



3月3日 桃の節句

甘酒、ひなあられに笑顔がこぼれます。



3月21日 春分の日

小豆から炊きあげた手作りのおはぎです。



寒い冬を越え、新緑の美しい季節になりました。自然に囲まれた信愛館は、施設の中からも桜や紅葉など様々な季節の移ろいを感じることができます。

前年に引き続き、昨年も新型コロナ感染対策に追われた大変な年でした。今年度も引き続き、安心して入居者の皆さんに過ごしていただけるよう職員一同努めていきたいと思ひます。(感謝)